

情報共有

11枚

NISA班 ← 7012対流中心

2

H23.5.19①議事メモ.doc Last printed 5/21/2011 8:40:00 PM

(非管理メモ)

(NISA発電分室
お渡し済)

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 5 月 19 日 (木) 11:00~12:20

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 40 名 (カメラ 6 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

本店広報部

配布資料：

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて【5月19日 午前9時現在】
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (5月19日 6:00 現在)
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 等
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (5/19 現在)
- ・ 2号機原子炉建屋内 (1階) の調査結果および線量測定結果
- ・ 福島第一原子力発電所サーベイマップ
- ・ 福島第一原子力発電所 津波来襲状況

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 津波写真 (1 - 4) の手前の建物と奥の建物は何か。

A. 廃棄物処理施設のプロセス主建屋から見て手前右側が補助建屋、左側が焼却工作建屋。集合排気筒の奥が4号機T/Bである。

Q. 2号機PCVへの窒素封入における配管取付部付近の線量は。

A. 今回予定している箇所は 27mSv/h であり、その床面が 30 mSv/h である。3号機についても同様の箇所となる。

Q. 遮へいをすれば作業に障害はないのか。

A. 問題ないレベルと考えている。

Q. 開閉するバルブもここにあるのか

A. その通り。

Q. 機器ハッチは建屋1階の天井部分にあるのか。

A. その通り。

Q. 機器ハッチ部分で水が滴下しているとのことだが、どこから落ちているものか。

A. 5階のオペレーションフロアから滴下していたもの。

Q. 5階のオペレーションフロアから凝縮した水が落ちてきているとのことだが、使用済燃料プールが損傷して漏洩している可能性はないのか。

A. 仮に使用済燃料プールが損傷している場合、水滴は壁を伝って落ちてくる可能性が高く、今回のように雨のように落ちてこないと考えている。

Q. 15分以上は作業困難とのことだが、作業中の具体的な温度や湿度はどうだったのか。

A. 体感温度として熱さ、湿気を感じたもので、具体的に測定はしていない。

Q. 2号機のダスト採取は、空気中のものを採取しているのか、床面のダストを拭き取って測定しているのか。

A. 空気中のダストを採取している。

Q. 今回の調査結果から、2号機において新たに判明した事象はあるか。

A. 1号機のように1,000mSv/hを超えるような高い線量は確認されておらず、遮へい対策をしっかりと行うことで作業は進められると考えている。

Q. 2号機に入域した作業員の中で、体調不良者がいたとのことだが、詳細は。

A. 蒸し暑かったため、一時的に医務室にて休養をとった。ただ、病院に行くほど悪化したわけではなく、念のため点滴をうけたとのこと。

Q. 医師の診断は受けたのか。

A. 軽い熱中症との判断を受けている。

Q. 3号機に前回作業員が入った日付は。

A. 水素爆発よりは前であるが、詳細時期は不明である。

Q. 津波の写真は、第1波の写真という理解でよいか。

A. この写真だけでは判断できない。

Q. 東電が加害者として福島県民のWBC測定は検討していないのか。

A. 地域の皆さまからそのような声は伺っており、政府と相談しながら進めていきたいと考えている。

Q. 福島の原子力事故に関わる県民からの問い合わせ件数は。

A. 数値として把握していない。

Q. 3号機の入域作業については事前予告がなかったが、その理由は。

A. 2号機の作業に注目しており、本店と現場の情報共有が不十分であったと考えており、その点は申し訳なかった。

Q. 2号機大物搬入口から体感温度が高いとのことだが、その理由は。

A. 熱源としては、使用済燃料プールの蒸気ではないかと想定している。

4

Q. 使用済燃料プールはどこにあるのか。

A. 5階の南側にある。機器ハッチは南西にありそこから蒸気が流入して1階全体に広まったと考えている。

Q. 3号機のR/B入域調査について、昨日の時点で入域することを把握していなかったのか。

A. 本店現場の情報共有はできていたが、広報サイドで共有されていなかった。

Q. 本部内での広報の情報共有が足りなかったということか。

A. そうである。

Q. 津波写真(2-3)のタンクのスペックは。

A. 右側のタンクは、サプレッションプール水サージタンクであり、容量は3,500m³、高さは約15mである。左側の二つのタンクは重油タンクであり、いずれも容量は960kl、高さは約10mである。

Q. 津波写真(2-5)の二つのタンクは、両方とも流されたという理解で良いか。

A. 二つの重油タンクは北側に押し流され、No.4重油タンクにおいて北側タンクの西側まで流されている。

Q. 防波堤の高さは。

A. 約10m。

Q. サプレッションプール水サージタンクが破壊された理由は。

A. 津波による水圧で押しつぶされたと想定している。

Q. 津波の写真を撮影したのは東電社員か。

A. 廃棄物処理施設から撮影した写真は当社協力企業、5,6号機側から撮影した写真は当社社員である。

Q. 今回の津波の写真公表に時間を要した理由は。

A. 情報収集・整理を行っている中で写真があることに気づき、建屋周りに津波が来襲する様子が分かりやすく撮影されており、今回公表させていただいた。

Q. 津波写真(2-4)に写っているサプレッションプール水サージタンクは地面についている状態なのか

A. その通り。

Q. 今回の津波写真を見る限り、津波の高さはこれまで同様14~15mという評価で変わらないか。

A. 地上約10mの位置にある重油タンクおよび軽油タンクの高さは約5.5m、4.3mであり、このタンクの上部まで津波がかぶさっている様子が見られることから、津波の高さとしては14~15m程度あったものと想定される。

Q. 津波で防波堤は破壊されたのか。

A. 破壊されていると考えている。

Q. 心筋梗塞で亡くなられた方の心肺停止が確認されたのはいつの時点か。

A. 時刻は確認させていただく。

Q. 心筋梗塞の主な原因は過酷な労働と脱水症状といわれているが、無理な環境であったのではないか。

A. 既往症の報告はなく、当該作業員は前日の午前6～9時で作業を終えた後、宿舎に帰った。当日は午前6時から働き、体調不良を訴えられた。作業としてはバンドソーを運搬する作業で、過酷という状況では無かったのではないかと考えている。

Q. AEDは設置されているのか。また、使用したのか。その時点で心肺停止はなかったのか。

A. AEDは医務室に設置されている。また当時は心臓マッサージと人工呼吸は実施したが、AEDを使用したかどうかは確認させていただく。心肺停止の時間についても確認させていただく。

Q. 再発防止策として、キャメルパックの使用は検討しているのか。

A. そのもの自体を存じ上げないため、現時点ではなんとも言えない。熱中症対策としてクールベスト等の冷却対策を実施している。

Q. 作業現場の対策はどのようにしているのか。

A. 仮設の休憩所、水分補給等をできるようにしている。

Q. 水たまりの線量は。また広範囲に渡っている理由は。

A. 線量は計測していない。またこの水たまりについては使用済燃料プールから蒸発した水が結露して溜まったものと考えている。水溜まりだけでなく、建屋内の温度、湿気を下げることが検討している。

Q. 水たまりを拭き取る必要はないのか。

A. 作業に当たっては十分配慮したい。

Q. 津波自体の高さを測ったことはあるのか。また、14～15mという数字はどこから出てきたのか。

A. 現場調査を実施した際に、建物に残っている海水が浸かった跡等を見て判断したもの。高さそのものは、15時27分に到達した第1波は、約4mと観測。15時35分に到達した第2波については検潮計が損傷しており計測できなかった。検潮計については7.5mまで計れるものだが、振り切られていたため、津波の高さは測れていない。

Q. 7.5mまで図れる検潮計が壊れていたとのことだが、機器が壊れていたのか、それとも機器自体が流されて無くなっているのか。

A. 確認させていただく。

6

- Q. 現時点で把握している津波評価について、高さは14~15mとのことだが、遡上も含めての高さか。
- A. そうである。
- Q. 津波の高さと遡上の高さは同じと考えてよいのか。
- A. 安全上の防護措置を検討する際には、遡上の高さで検討すべきと考えている。
- Q. 津波襲来状況の動画はあるのか。
- A. まだ整理できていない。
- Q. 他の場所から撮影した画像はあるのか。
- A. 今後確認していく。
- Q. 2号機R/B内の温度を下げるためにどのような対策を考えているのか。
- A. 発熱源を抑えることができれば温度も低くなると考えている。
- Q. 2号機R/B入域時の計画線量は
- A. 10mSv と思うが、確認する。
- Q. 近々R/B内に入域する予定は。
- A. 本日はない。それ以降は決まっていない。
- Q. 津波写真の撮影時刻は。
- A. 分からない。15:42頃というのはあくまでデジタルカメラ内の時計なので、正確なものではない。
- Q. 汚染水が約10万トンあるとのことだが、これまでの原子炉および、使用済燃料プールへの総注入量は。
- A. 確認させていただく。
- Q. 発電所内の瓦礫等の線量の把握についてはどの程度確認済みとすることか。
- A. これまでコンテナ160~170個分を回収済みだが、まだ継続中である。
- Q. 2号機への窒素注入について、バルブを持ってくればすぐに接続できるのか。
- A. 窒素供給装置から配管につなぎこむ作業が発生するが、その場所を確認するために5/18にR/B内に入域した。
- Q. 北側取水口付近の堤防については壊れたままか。
- A. まだ修理できていない。
- Q. サプレッションプールサージタンクの高さは。
- A. 約4m。

7

Q: サプレッションプールサージタンクは重油タンクのように浮き上がって移動していないということか。

A. そうである。

Q. 東電は今回の事故を人災と考えているのか。

A. まだ判断できる状況ではない。

Q. 核種の生データのスペクトルの情報公開の閲覧準備の状況は。

A. 近々閲覧可能になると思う。

以上